

2024.3.3

# 本人が伝えてくれていること

個別支援計画を通して考えたことや取り組み

特定非営利活動法人さんぽ  
多機能型事業所ワンステップ 高村 壮士

# 今日の出来事

□グループホーム開設に向けての説明会

- ▶ 「あきらめること」に慣れるということ
- ▶ 幸せになるということ

# 事業所紹介

□多機能型事業所ワンステップ

放課後等デイサービス10名

生活介護25名(従たる事業所3つ)令和6年4月～予定

日中一時支援事業

□sTack 放課後等デイサービス10名

□ヘルパーまほろステーション

居宅介護 行動援護 重度訪問介護 移動支援 有償福祉運送

□グループホーム 定員4名 令和6年6月～予定

# プロフィール 39歳 女性

- ▶ 障害の状況 知的障害A1 身体障害1級
- ▶ 2歳の時のけいれん重積発作の後遺症による四肢体幹機能障害
- ▶ 左半身に麻痺があるため、歩行時、入浴時、排泄等見守り及び介助必要
- ▶ 非常に繊細で、物音、人の出入りなどの変化にかなり敏感。特に大きい音や本人が疲れている時はより過敏であり、突然に、また大きな音がきこえた時に不随意的な反応がみられる。(びっくり反射)

## ▶受容性のコミュニケーション

環境の変化や人の出入りなど非常に繊細に感じ取っている。日課や次の活動が始まる際は、絵カードを提示したり、靴などの実物を示したり、玄関に車を配置したりするなどの配慮や工夫をしている。

## ▶表出コミュニケーション

大きな声で、こんにちは、ばかなどの言葉をいうことはあるが、何か思いをしっかりと伝えているかという曖昧である。基本はとてもおとなしく過ごしていて、自発的な行動もあまりないが、何かのきっかけや拍子に、ずるずると座っているその場からずり落ちていくような行動が見られている。

# エピソード

- ▶月に1回、学校時代の同級生などの仲間と家族が集まって、茶話会や外出行事などを企画して参加している。
- ▶週に2～3回自宅で入浴介助や家事援助でヘルパーさんを継続的に利用している。
- ▶以前は、快活によく笑う事が多く明るく、あまり大きな声を出すようなことはなかった。
- ▶自宅でのヘルパーさんとの関係性が悪くなってしまったのか、原因は不明だが、鬱状態のような状態になったこともあった。

▶地域生活の基盤作りのために行ったショートステイの利用の際に、ショック症状のような状態になり、緊張が高まり、動けなくなったり、言動や行動が激しくなった。

▶この頃、通所施設においても、緊張から動きが固くなったり、通所を渋るような様子が見られだして、通所されることにご家族が躊躇するようになってきた。知人を介して、当事業所を紹介され利用がはじまった。

# はじまり

嫌なことがあったのか、不安で困ったのか、はっきりとは分からないけれど、あまり緊張しないでよいようにしてあげたい。優しく穏やかな職員に囲まれて、落ち着いて過ごしてくれたら安心して過ごせるようになるのではないかと始まった。

冗談が好きでよく笑って、友達に怒られて泣いている。徐々にできることや理解できていることがいっぱいあることが分かってきた。

そして、活動を選択することや、その日のスケジュールの確認を丁寧に積み重ねていけたらとスタートした。



# 令和6年度 個別支援計画

## 6ヶ月の支援目標

※安心できる空間（春の町）で楽しみながら自発的に活動できるように取り組みます。

## 目標達成に向けた取り組み内容 1

※本人の意思表出を大切にした活動を行っていきます。

## 目標達成に向けた取り組み内容 2

※作業や生活場面でできることや楽しみを増やしていきます。

## 具体的な取り組み①

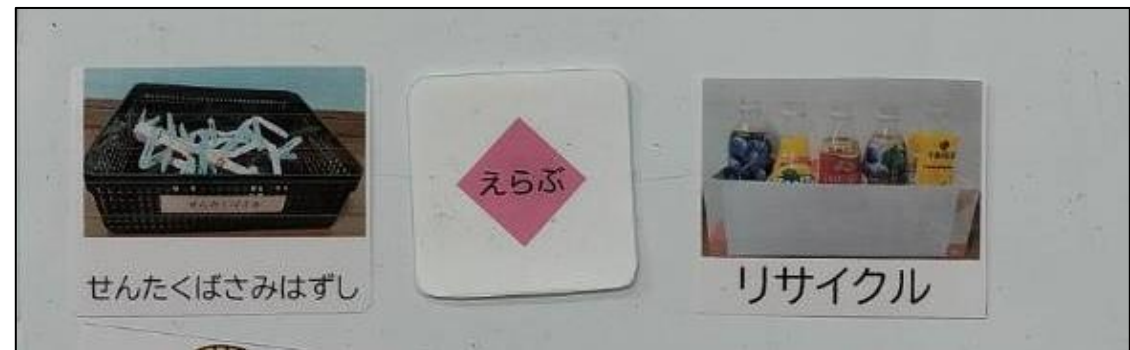
本人の意思表出を大切にした活動を行っていきます。

※ 本人の意思表出として、発する言葉や声の状態・表情・行動が上げられます。それを汲み取り反映できる支援及び活動に努めます。特にずり落ちは、ずり落ちの場面・前後の様子・考えられる要因について記録を行います。

日付	時間	行動	前後の様子	考えられる要因 焼きもち 不快 ストレス 苦手なことがある そばに来てほしい 遊んでほしい 疲れている etc ※環境要因の分析とともに本人の感情や 気持ちを考察してください
2月5日(月)	12:50	2	手足のケアの導入時。職員がケアを行おうとするとソファからゆっくりずり落ちる。横になった状態で声かけしながらケアを行う。	爪切りは慣れてきているが緊張もあると思われる。(爪切り時に傷ついたことがある。爪切りを見ると声出しが激しくなり対応が難しくなる。～家族からの情報)
	15:20	2	代表が近づくとソファからゆっくりずり落ちる。そのまま横になる。	テンションが上がり声出しもあり。嬉しいのそばにきてほしい。
2月9日(金)	9:55	2	出勤した職員を玄関先で見たとき。最初は声が出ていたが、周りの反応が感じられなかった為か、ソファからゆっくりずり落ちる。	本人が来所した後に、誰かが事業所に入ってきた時(職員、母親等)に見られる事が多い様子。その際声が出ることもあり、朝は「おはよう」の言葉が多い。

※意思表出の手立てとなるツール（実物、絵・写真カード、タブレット等）を活用して支援を行い、その結果について記録を行います。

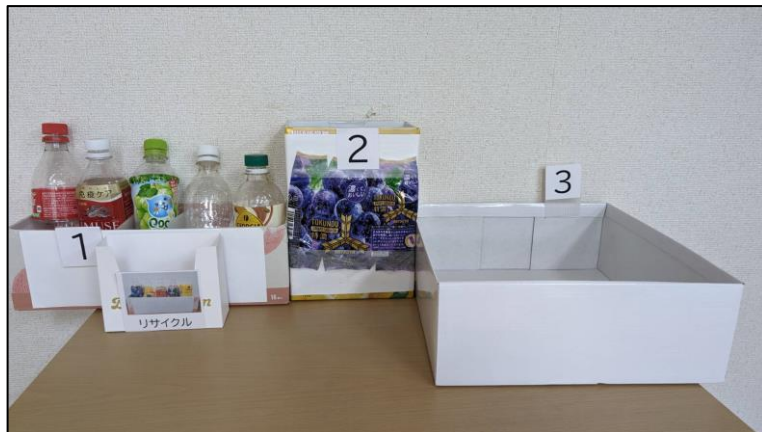
※ 記録した情報から、本人の意思表出を検討し、場面に応じて有効かつ共通した支援が行える手立てを考えていきます。



## 具体的な取り組み②

作業や生活場面でできることや楽しみを増やしていきます。

- ※ 作業は1日1回取り組みます。
- ※ 現在まで取り組んでいる作業（リサイクル・せんたくばさみ外し）の一連の工程が自立してとりくめるように作業工程を改良していきます。鼻緒づくり作業の機会を設定し、本人が取り組みやすい手立てを考え実践してみます。



※ タブレットに興味関心を示しているので、タブレットを使用することができることや楽しみを見つけることを検討します。

※ カラオケ等の外出活動やその他に楽しんで経験できる機会をつくります。

※ レクリエーションや体を動かす活動に楽しく参加できるように支援します

# 行動観察

※ずり落ちは、本人の表出表現の行動として考え、ずり落ちの場面・前後の様子・考えられる要因について記録を行います。

→本人の行動を記録して、統計をとって数値化することで、原因や推測について客観的なデータをとり検証し、職員間の共通理解に近づける。

※意思表示について、本人の状態の観察及び表出の手立てとなるツールを活用し、場面・支援・結果や状態について記録を行い検証していきます。

→ツールや支援者と本人のやりとりなどについて検証して、改善を図っていく

# 最近の様子

「お母さん」と呼ぶようになりました。

作業をしたくないときは、実物や作業のカードを投げたりします。歌が好きで、職員と一緒によく歌っています。カラオケにも行ってフレーズをすこし口ずさんでいます。昭和歌謡が好きなようで、特に嬉しそうに体を揺らして踊っています。

そばに来た友達や介助している職員をパチッと叩く時があります。冗談で叩く時もあります。

ずり落ちてしまったり、ずり落ちそうになったりしています。

# コミットの会の参加を通して思うこと①

- 統一した支援や共通理解はとても難しい  
「生きる—支えつつ、支えられて」武田幸治 著  
思考の不連続性、抽象的概念に弱いという知的障害の特性と言われるものを本人が変えていく
- 行動観察の重要性の再確認
- 注意獲得行動という言葉の持つ意味  
その行動の背景にある彼女の思いや意思を理解するための入り口に立っているのに…



## コミットの会の参加を通して思うこと②

□支援者側の意図を伝えるツールの力と怖さ

- ・狭いコミュニティの中で物事を簡単に断定することの正当性はあるのだろうか
- ・ツールは本人の幸福追求にどれだけ寄与しているのだろうか
- ・視覚的な提示は、言葉の指示よりも強い意味を持つときがある

□あきらめることに慣れていきたくない

□幸せを感じる生活を共に歩んでいきたい